

一般財団法人伊勢神宮崇敬会
令和 6 年度事業報告
(自令和 6 年 4 月 1 日 至令和 7 年 3 月 31 日)

本会は令和 5 年度に設立 70 周年の節目を迎えた。この佳節を機に、主目的である「神宮の御神徳を宣揚し、社会の健全な発展に寄与すること」を改めて見つめ直し、日本に根ざした伝統文化を次世代、さらにはその次の世代へと受け継ぐため、神宮奉賛活動に尽力した。

特に本年は、昭和 31 年に始まった「伊勢神宮新穀感謝祭」が 70 回目を迎える記念すべき年となった。新穀感謝祭をはじめ、「神宮 125 社まいり」などの会員向け恒例事業を着実に実施し、崇敬心のさらなる涵養に努めた。

「参宮の宿」として親しまれる神宮会館では、本年も宿泊者を対象に毎日「早朝参拝案内」を実施し、清々しい朝の内宮を深く体感していただけるよう努めた。また、ウェブサイトや SNS を積極的に活用し、神宮会館だけでなく伊勢の魅力を幅広く発信した。

1. 文化及び芸術の振興

① 神宮植樹祭の参列

森林のもつ機能の大切さを学び、自然に対する畏敬の念を体感するため神宮宮域林で行われる桧の苗木を植樹するお祭りに、特に許されて参列した。5 年ぶりに植樹祭に参加させていただき、将来の遷宮御用材となることを願い、桧の苗木を植えることができた。

＜定員 15 名＞非会員は参加不可

4 月 24・25 日 15 名

② 神宮 125 社まいり

本年度で 24 期目。神宮で正宮・別宮・摂社・末社・所管社としてお祭りされる全てのお社を年 5 回に分けて参拝し、様々な形で営まれる神宮の神祭りの姿とその心を学んだ。

・各巡拝日程

＜定員各 25 名＞非会員は参加不可

A コース (4 月 16・17 日) 26 名＜5 年度 21 名＞

B コース (5 月 16・17 日) 25 名＜5 年度 20 名＞

C コース (9 月 24・25 日) 25 名＜5 年度 25 名＞

D コース (10 月 18・19 日) 25 名＜5 年度 23 名＞

E コース (令和 7 年 2 月 12・13 日) 23 名＜5 年度 27 名＞

③ 倭姫命ご巡幸まいり

倭姫命の御事績や教えについて講話を行い、倭姫命がお定めになったと伝えられるお社に参拝し、旧蹟などを巡り、約二千年を遡る神宮の原点に思いを馳せ、崇敬心を深めた。

＜定員各 25 名＞非会員は参加不可

春コース日程 (5 月 27・28 日) 25 名 <5 年度 20 名>

秋コース日程 (10 月 25・26 日) 24 名 <5 年度 24 名>

④ 神宮ばら園の運営

昭和 62 年 10 月に開園した神宮ばら園を運営して春と秋に無料開園し、訪れる方々に安らぎの場を提供した。また皇室敬慕の心を育むため皇族のお名前を冠したプリンセス・

ローズを育成し公開した。開園期間外にも関心を寄せていただけるよう、コンテンツ配信用プラットフォーム「note」において、開花状況や育成記録等の情報を発信した。

⑤ 小笠原流礼法教室と外宮朔日まいり

初日には弓馬術礼法の小笠原流三十一世宗家である小笠原清忠氏による礼法教室を開いた。翌日、早朝より外宮での神馬牽参や日別朝夕大御饌祭参進を奉拝し、外宮特別参拝や御神楽の奉納を行った。また、神宮の附属施設や近隣の文化施設を見学した。これらを通じて日本文化への理解を深めるとともに、神宮崇敬の心をより深く育むことができた。

＜定員各 15 名＞非会員は参加不可

6 月（5 月 31 日・6 月 1 日） 11 名＜5 年度 5 名＞

9 月（8 月 31 日・9 月 1 日） 台風 10 号の接近により取止め＜5 年度 7 名＞

3 月（2 月 28 日・3 月 1 日） 13 名＜5 年度 7 名＞

⑥ 神宮祭典の奉拝

二千年に亘り営まれているお祭りを間近に奉拝し、そこに受け継がれる神祭りの心を体感した。夜間に行われる 6 月・12 月の月次祭（内宮）と神嘗祭（外宮）の由貴夕大御饌をはじめ、年間恒例のお祭りを奉拝した。

＜定員各 30 名＞非会員は参加不可

六月月次祭（6 月 16 日） 28 名＜5 年度コロナ禍につき取止め＞

十二月月次祭（12 月 16 日） 28 名＜5 年度 25 名＞

⑦ 第 47 回神恩感謝祭

神宮の六月月次祭に際し会員が伊勢に集い、神宮の広大なるご神恩に感謝の真心を捧げ、会員各位の隆昌を祈念するお神楽を奉納した。初日は夕刻に集合の後、職員による神宮月次祭に関する講話を行った。その後、別宮の由貴夕大御饌の儀（18 日は月読宮・24 日は倭姫宮）を奉拝した。翌日は、外宮特別参拝・別宮参拝（19 日は月読宮・25 日は倭姫宮）・内宮特別参拝の後、神恩感謝のお神楽を奉納した。

＜定員 80 名＞非会員は参加不可

6 月 18・19 日 66 名＜5 年度 67 名＞

6 月 24・25 日 73 名※今年度より追加

⑧ 夏至まいりと茅の輪作り体験

夏至の日に神宮に参拝し、太陽の恵みのもとに営まれる大いなる自然の力に対する感謝と畏敬の念を深めた。また、古来この季節には夏越の祓いを行い、無病息災を願う風習があり、それに因んだ携帯できる茅の輪作りを体験し、身体健全を祈った。

＜定員 25 名＞非会員は参加不可

6 月 20・21 日 5 名＜5 年度 16 名＞

⑨ 第 6 回神宮奉納弓道大会

「一度は、伊勢の神宮弓道場（昭和 38 年 8 月竣工）で弓を引いてみたい」という全国の弓人の切望に応え、地元弓道関係者の協力のもと、神宮奉納弓道大会実行委員会（主管）によって開催した。全国から参加を募り、弓道技能の向上と弓友相互の親睦を図った。

7 月 8 日 231 名＜5 年度 239 名＞非会員も参加可

⑩ 第 53 回初穂曳への参加

神嘗祭に合わせて全国から初穂米を募り、特別神領民として伊勢の伝統文化行事「お木曳」を継承するための「初穂曳」に参加し、初穂米を神宮に奉納することができた。また、外宮神嘗祭・由貴夕大御饌の儀を奉拝し、食文化を大切にしてきた日本の心に触れるとともに、長年培われてきた豊穰への感謝の気持ちを深く体験した。〔神社本庁協力〕

(10 月 15 日) 33 名 外、神社本庁募集枠 197 名 計 230 名<5 年度 36 名>

⑪ 第 70 回伊勢神宮新穀感謝祭

本年も新穀収穫への感謝を捧げる奉告祭を執り行った。また、農林水産業の振興に多大な貢献をされた功労者を顕彰し、我が国の農業全般のさらなる発展を祈念した。今回の参列者数はコロナ禍前の水準には達しなかったものの、昨年を上回る約 6,500 名が全国の神社庁や神社庁支部から集い、本事業の趣旨に賛同していただけた。

式典では、農事関係功労者および第 70 回記念功労者の顕彰を行った。70 回目の節目を迎える今年は、崇敬会地方本部を通じて新穀感謝祭功労者を募り、455 名の方々に神宮大宮司と本会会長の連名で顕彰状と記念品の授与を行った。

(11 月 5 日～12 月 12 日) 参列者 6,560 名・農事関係功労者顕彰 22 名

<5 年度 参列者 6,336 名・農事関係功労者顕彰 20 名>

⑫ 第 63 回伊勢神宮奉納書道展

毎日新聞社との共催で全国各地から書作品を公募し、内宮饗膳所に於いて展示し、併せて文部科学大臣賞をはじめ優秀作品の受賞者を招待し表彰した。1,400 年以上にわたり育まれてきた書道の伝統文化を振興し、書にみる芸術性を喚起した。

(展示期間 11 月 23 日～12 月 2 日、表彰式 12 月 1 日)

出展 17,531 点 展示 565<5 年度 17,812 点 展示 566 点>

⑬ 令和 6 年の御礼まいり

神宮の十二月月次祭に際し一年の締めくくりとして大御神様のご神恩に感謝の真心を捧げ、皇室の弥栄、国家の安泰及び参加者各位の平安・隆昌を祈念するお神楽を奉納した。月読宮及び倭姫宮の由貴夕大御饌の儀を奉拝し、併せて月次祭についての講話を行った。翌日は内宮特別参拝後、御神楽を奉納し、感謝の真心を捧げた。

<定員各 50 名>非会員は参加不可

月読宮コース (12 月 18・19 日) 32 名<5 年度 36 名>

倭姫宮コース (12 月 24・25 日) 31 名<5 年度 35 名>

⑭ 第 68 回神宮奉納大相撲

公益財団法人日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じ守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露した。八角相撲協会理事長を始め協会役員が両宮特別参拝のち内宮神楽殿でお神楽を奉納。その後、内宮神苑にて横綱 豊昇龍の土俵入りと、三役力士による揃い踏み奉納し、神宮相撲場ではトーナメント戦等を行った。(3 月 30 日)

内宮神苑手数入り 約 800 名、神宮相撲場 約 2,500 名

幕内トーナメント優勝者 豊昇龍 智勝 (ほうしょうりゅう ともかつ)

準優勝者 大の里 泰輝 (おおのさと だいき)

2. 児童及び青少年の健全育成

① 第15回伊勢と神宮 伝統文化体験教室

全国の小学生とその保護者を対象に、神都伊勢の中で育まれた伝統文化を学び、培われた歴史や文化を尊ぶ健全な心の育成を目的とした体験型教室を開催した。神宮の神事でも行われる火鑽具による火起こしや、皇學館大学神道博物館で、博物館職員に指導を受けながら、和綴じ本の作製と館内見学を行った。

<定員 15 組（小学生とその保護者 30 名程度）> 非会員も参加可

8 月 9 日 4 組・10 名

8 月 23 日 4 組・9 名

<5 年度 2 組・5 名> ※今年度は日帰りで開催

② 第62回伊勢神宮奉納全日本学生弓道大会

全日本学生弓道連盟・神宮司庁・三重県弓道連盟との共催で、全日本学生弓道王座決定戦第72回男子の部・東西学生弓道選抜対抗試合第70回男子の部・全日本学生弓道女子王座決定戦第48回女子の部・女子東西学生弓道選抜対抗試合第48回女子の部を開催した。

大会期間（11 月 23 日～26 日）

③ 第19回神宮奉納お伊勢まいり作文コンクール

全国の小学生を対象に、神宮参拝を通じて伊勢の風土や文化に触れた感想や思い出を作文として募集した。応募作品の中から優秀作品を選出し、3 月 15 日に受賞者を招き表彰式を開催した。この取り組みを通じて、国語の表現力向上や情操教育への貢献を目指した。

3. 会員組織の拡充と展開

① 入会促進

日本人にとって大きな精神的支柱である伊勢の神宮を多方面から紹介し、受け継がれてきた神を敬う心や日本を愛する心を育むことに努めた。遷宮を次世代へ繋ぐ「懸け橋」として、祭典案内をはじめとする様々な施策を実施し、会員の拡充にも力を注いだ。

また、年間を通じた事業活動を通じて、神宮だけでなく伊勢の魅力や歴史を継続的に発信した。さらに、会員の紹介を通じた新規入会の増加を目指し、会員満足度を高めるための活動内容を常に見直し、質の向上を図った。

今期目標 個人会員 20,000 名（賛助会員 7,000 名・正会員 8,000 名・会員 5,000 名）
維持会員 500 件（団体 400 件・個人 100 件）

年度	賛助会員	正会員	会員	合計	維持会員
6 年度	6,464 名	8,189 名	4,137 名	18,790 名	団体 317 件・個人 27 件
5 年度	6,384 名	7,948 名	4,116 名	18,448 名	団体 307 件・個人 26 件

崇敬会会員の現状

都道府県	賛助会員	正会員	会員	合計
東京都	869	1,737	855	3,461
神奈川県	470	410	175	1,055
埼玉県	234	257	103	594
群馬県	79	92	40	211
千葉県	384	221	77	682
茨城県	80	56	30	166
栃木県	70	52	61	183
山梨県	56	108	43	207
北海道	238	298	153	689
宮城県	65	62	47	174
福島県	63	142	17	222
岩手県	21	27	37	85
青森県	66	25	19	110
山形県	40	27	10	77
秋田県	22	41	10	73
三重県	300	354	63	717
愛知県	474	512	328	1,314
静岡県	253	252	597	1,102
岐阜県	129	171	48	348
長野県	122	404	76	602
新潟県	84	93	108	285
福井県	40	37	10	87
石川県	80	68	22	170
富山県	124	129	34	287

都道府県	賛助会員	正会員	会員	合計
京都府	169	178	46	393
大阪府	452	551	137	1,140
兵庫県	211	276	94	581
奈良県	59	84	20	163
滋賀県	84	67	15	166
和歌山県	44	50	15	109
鳥取県	19	40	11	70
島根県	38	35	41	114
岡山県	90	117	47	254
広島県	88	66	31	185
山口県	76	67	31	174
徳島県	43	68	6	117
香川県	64	56	21	141
愛媛県	42	25	33	100
高知県	93	67	11	171
長崎県	25	267	4	296
福岡県	270	325	255	850
大分県	44	48	14	106
佐賀県	50	60	267	377
熊本県	63	97	19	179
宮崎県	23	12	10	45
鹿児島県	38	35	16	89
沖縄県	15	22	29	66
海外	1	1	1	3
合計	6,464	8,189	4,137	18,790

② 第29回会員研修会

春・秋とも同内容で開催した。内宮古殿地清掃奉仕、講話「神宮式年遷宮について」（講師 皇學館大学名誉教授 渡邊寛氏）に続き、参拝作法（玉串奉奠）の講習と、内宮夜間参拝を行った。翌日は、両宮特別参拝・御神楽奉納を行い、神宮崇敬心の涵養に努めた。また、春の研修会参加者には秋の参加を控えていただき、多くの会員が参加できるよう調整を図った。

＜定員 春 50 名・秋 50 名＞非会員は参加不可

春 5 月 8・9 日 27 名＜5 年度 35 名＞

秋 10 月 8・9 日 28 名＜5 年度 28 名＞

4. 宿泊、研修施設等の運営

① 神宮会館の運営

お伊勢まいりの宿として、早朝参拝案内をはじめ参宮促進及び御神徳宣揚に努め、伊勢の神宮が伝えてきた文化及び芸術の魅力をより多くの方に知っていただけるよう努めた。

宿泊利用者 30,118 名（1 日平均 82.52 名・部屋稼働率 57.50%）

※令和 5 年度 28,879 名（1 日平均 78.90 名・部屋稼働率 54.61%）

月度	大人	学生小人	宿泊合計	月度	大人	学生小人	宿泊合計
4	2,020	139	2,159	10	2,752	303	3,055
5	2,407	49	2,456	11	2,131	807	2,938
6	1,967	93	2,060	12	1,949	261	2,210
7	1,586	2,437	4,023	1	2,270	59	2,329
8	1,576	641	2,217	2	1,873	297	2,170
9	1,998	208	2,206	3	1,970	325	2,295
				合計	24,499	5,619	30,118

(ア)第 24 回八朔まいりとお水汲み

伊勢では八朔の日（8 月 1 日）に五十鈴川の水を汲んで瀧祭神に参拝し、その水を神棚に供えて 1 年の家内安全・無病息災を祈る風習があり、その体験を行った。

＜定員 70 名＞非会員も参加可

7 月 31 日・8 月 1 日 44 名＜5 年度 37 名＞

(イ)第 25 回冬至まいりと注連縄作り体験

冬至の日は曇りで、宇治橋大鳥居の正面から昇る朝日は望めなかったが、内宮にて特別参拝を行い、自然に対する感謝と畏敬の念を深めた。また、伊勢では年中玄閼に注連縄を飾り無病息災を願う風習にならい伊勢特有の注連縄作りを体験し、新年にむけて家内平安への思いを込めた。

＜定員 80 名＞非会員も参加可

12 月 20・21 日 59 名＜5 年度 63 名＞

(ウ)還暦・厄年まいり

人生儀礼の中で特に節目の年となる還暦や厄年を無事迎えたことへの御神恩に感謝し、神宮参拝と御神楽の奉納を行った。これからの人生の安寧を祈るお神楽を奉納し、還暦の方には健康招福の御守り、厄年の方には厄祓いの御守りをいただいた。

＜定員 50 名＞非会員も参加可

2 月 6・7 日 33 名＜5 年度 56 名＞

(エ)第 34 回お伊勢さん正宮・別宮まいり

その年の豊穰を祈る神宮の祈年祭に合わせて、内宮・外宮の両正宮と全別宮を 1 泊 2 日で巡拝し、別宮の祭典奉拝や神宮の文化施設徴古館見学も行った。

＜定員 30 名＞非会員も参加可

2 月 17・18 日 33 名＜5 年度 22 名＞

5. 会報、図書その他印刷物の編纂と刊行

① 会報誌「みもすそ」

皇室・神宮に関する記事、伊勢志摩の歴史・文化の話題や本会行事などの情報発信源の主力媒体として編集し、全会員に配布。創刊から今年度 1 月で 113 号発行となった。

特集内容 4 月 110 号 神勅と神宮式年遷宮

7 月 111 号 御塩道を歩く

10 月 112 号 太田小三郎と神苑会

1 月 113 号 伊勢神宮崇敬会会員制度移行 30 周年

② 叢書

神宮や神道、日本史の各界有識者に依頼し御神徳の宣揚、神社神道の昂揚を図るための叢書を 7 月 1 日に刊行した。

叢書 28『神道史から見た式年遷宮』 國學院大學教授 武田秀章氏

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① 昼食の利用促進

神社関係者を中心に働きかけ、お神楽奉奏の団体には直会饗膳も提案した。

利用者 24,225 名（平均 66.4 名／日）、令和 5 年度 24,553 名（平均 67.0 名／日）

② 物品、記念品の販売

会館利用者並びに崇敬会会員へ記念品や特産品の販売、木製品等の参宮記念品の謹製・頒布を行った。また神社本庁発行の形で運用されてきたカレンダーを「伊勢の神宮 ISE-JINGU KOYOMI」として神宮監修のもと発行し送付した。

③ 研修施設及び神宮相撲場の利用促進

講堂（大ホール・会議室）及び神宮相撲場の利用促進を図った。

④ 神宮参拝者駐車場の運営

内宮前の渋滞緩和の一助として、神宮会館横に隣接する立体駐車場を運営した。

年度	乗用車	バス	合計	有料乗用車	有料バス	有料合計
6 年度	164,885 台	713 台	165,598 台	141,627 台	12 台	141,639 台
5 年度	160,516 台	810 台	161,326 台	140,008 台	15 台	140,023 台

⑤ コインロッカーの運営

宇治橋前にコインロッカーを設置し、内宮参拝者の便宜を図った。

⑥ 太陽光発電事業の運営

我が国のエネルギー政策である Co2 排出削減や再生可能エネルギー導入拡大への協力を
行い地球環境保護に貢献するとともに、神宮会館経営の一助とした。

⑦ 神社関係者大会等に出向

各地で開催される神社関係者大会等に出向き、本会の広報を行った。（4 月岡山県神社庁関係者大会、8 月広島県神社庁関係者大会、3 月静岡県神社庁関係者大会）

⑧ スポーツ及び文化活動への助成

行政を含めた協賛・後援依頼団体の行事及び事業の助成をした。

⑨ 参宮案内所における案内

神宮の参宮案内所(宇治橋前)に職員を派遣し、神宮に関する案内を行った。

7. 施設の改善

① 神宮司庁に依頼して施工された施設改修及び修繕

【立体駐車場】

エレベーター屋上塔屋の防水工事

② 本会にて実施した施設改修及び修繕

【本館】

客室内窓設置工事・エアコン内部洗浄・ロビーカーテン交換・給湯設備循環ポンプ更新・客室レースカーテン取り替え・厨房漏電ブレーカー交換・客室防音工事

【西館】

給湯設備循環ポンプ更新・コインランドリー乾燥機取り替え・ロビーソファー張り替え・雨水侵入軽減工事

【講堂棟】

エレベーターバッテリー交換

【立体駐車場】

消防用設備取り替え工事・女性トイレ漏水修理

【弓道場】

大講堂から弓道場への渡り廊下屋根設置・樹木植え替え

8. 役職員数

理事14名、監事1名、評議員15名、職員 渡邊事務局長 他44名

9. 会議

1. 運営委員会	5月 9日 (神宮会館会議室)	令和5年度事業報告・決算	他
2. 監事会	5月13日 (神宮会館会議室)	令和5年度業務及び会計監査	
3. 第12回定時評議員会	5月16日 (神宮会館会議室)	令和5年度事業報告・決算	他
4. 第28回理事会	5月16日 (神宮会館会議室)	令和5年度事業報告・決算	他
5. 代議員会	6月 7日 (神宮会館大講堂)	令和5年度事業報告・決算	他
6. 運営委員会	9月 7日 (神宮会館会議室)	令和6年度事業報告(中間)	他
7. 事務局長会	9月17日 (神宮会館会議室)	事業報告・計画	他
8. 運営委員会	3月15日 (神宮会館会議室)	令和7年度事業計画・予算	他
9. 臨時評議員会	3月26日 (神宮会館会議室)	令和7年度事業計画・予算	他
10. 第29回理事会	3月26日 (神宮会館会議室)	令和7年度事業計画・予算	他

以 上